

克己とゲーム

おはようございます。2学期が始まりました。1学期の終業式は、已むを得ず、他の公務を優先し、学校を留守にした関係で、「校長室便り♪シンフォニー♪響きあうところ」を発行しました。ひよんなことから始まったシンフォニーですが、せっかく発行したわけですから、創刊号が最終号とならぬよう第2号を発行しました。

「克己とゲーム」、もっとキャッチーなタイトルが思い浮かべばよかったのですが…。きっかけはオリンピックです。テレビを見ていて、「こういうレベルになるにはどうしたらいいのかなあ」ということで、常々考えていたことをオリンピックをきっかけに文字にしてみることにしました。そして、最後は受験。合格につなげます。

まずは、「克己(こっき)」、「己に克(か)つ」。「自分の欲望や邪念にうちかつこと」という意味です。競技スポーツ(「運動競技」だけを意味しない。【例】囲碁・将棋)の世界で、「自分に負けるな」「自分に勝て」というのとはちょっと違う意味なのでしょうけれども、私はそれと同じ意味で使っています。あえて、「克己」というわかりづらい言葉を使ったのは、私の大好きな「あすなろ物語」に出てくる言葉だからです。本校のPTA広報紙の名前でもある「あすなろ」は、「明日は檜になろう」の「あすなろ」が、「やがて大樹になるために」とつながったものと推察しています。なので、これも「言霊」、いい言葉だなということ、で、「克己」という言葉を選びました。私が常々求めている、「一流になる」「本物になる」には、「克己」が必要ということになります。

「勝つ」ためにも、「克己」が必要です。勝つための厳しい練習は、「自分との闘い」です。いざ、競技本番の場面でも、実力を発揮するために「自分との闘い」が求められます。しかし、私は今まで、競技本番で、選手が自分と闘って自滅していく場面を何度も見てきました。そのとき、私はいつも、「自分と闘っている場合ではないんだよなあ」と思いながら競技を見つめていました。では、どんな場合かというと、競技中は、「相手と戦う」場合なのです。「相手と戦う」、これがゲームです。集団球技も個人球技(ダブルス含む)も格闘技も囲碁・将棋も、みな相手と戦っています。「相手の弱点を攻める」「相手の長所を封じ込む」「自分の長所を最大限に発揮する」「自分の短所が目立たないようにする」。「相手と戦う」「勝とうとする」「ゲームを楽しむ」とは、そういうことです。そのことに集中していれば、「自分と闘って自滅する」なんてことはあり得ない。テニスで首を傾げる。サーブが入らず、レシーブが入らず、ストロークが入らず、首を傾げる。こういう人は相手と戦っていない。相手と戦うのが怖くて、自滅の道を選択したということです。どんなに調子が悪くとも、競技に勝ちたければ、ゲームを楽しみたければ、相手との戦いに集中します。だから、自滅などしません。あくまでも「自分との闘い」主義を主張される方というのは、「地力(実力)が圧倒的優位にあり、相手のことなど関係ない」という

レベルの方でなければ、「相手との戦いを放棄した」自滅・言い訳タイプということになるでしょう。

さて、受験です。3年生、2年生、1年生、それぞれの残り時間、徹底的に勉強してください。「克己」です。「自分との闘い」です。そして、力をつけてください。そして受験競技・受験ゲームに勝ってください。(と言っても、もう少し、言葉を足さないと、先ほどまでの話と受験が繋がらないかと思いますので、さらに続けます。)

たとえば、模擬試験の偏差値。これのアップダウンは、「自分との闘い」ですか、「相手との戦い」ですか。…。これは、「自分との闘い」「克己」です。他の受験生とは戦いようがない。勉強して、勉強して、点数を上げるしかない。「自分との闘い」です。ちなみに、これは模擬試験ではなく、受験本番(当日)でも同じこと、他の受験生とは戦いようがありません。「自分と闘う」しかないのです。

それでは、受験競技・受験ゲームとは、何と戦うことなのか。それは、「試験問題」「問題傾向」。これとの戦いが競技であり、ゲームであるということです。この戦いに参加せずして、「自分との闘い(偏差値)」に終始するのは、圧倒的な偏差値優位で合格するのか、試合放棄しているのか、そのいずれかということになります。

模擬試験は受験体力テストです。偏差値は、受験体力であり、志望校の問題傾向も配点も加味していません。実際の競技のルール(配点及び問題傾向)を無視して算出した受験体力(偏差値)です。模擬試験というのは、サッカー部員とバスケット部員が陸上競技で勝負しているようなものです。その結果がどうあれ、両部がサッカールールで勝負すればサッカー部が勝ち、バスケットルールで勝負すればバスケット部が勝ちます。当然の結果です。

個人の偏差値と個別大学の偏差値が同点だったときの合格率は50%です。10校受けて5校受かるという意味ではありません。10人受けて5人受かるということです。受かった5人の中には10校とも受かった者がいるし、落ちた5人の中には10校とも落ちた者がいます。50%とはそういうことです。「自分との闘い」だけでは、50%は50%以下にしかなりません。50%を50%以上にするためには、「相手(問題傾向・配点)との戦い」に勝つ必要があります。相手(問題傾向・配点)をよく研究し、よく準備してください。(「天才とは、準備の天才のことである」)(もちろん、「相手との戦い」だけに終始しては駄目ですよ。それはそれで試合放棄ということになります。)

第1号で、『急がば回れ』でしっかり勉強し、力をつけてください」と書きました。今日の文章でいうと、「克己」「自分との闘い」にあたります。本日はそこに、競技・ゲームへの対し方、「相手との戦い」を加えました。この二つをしっかりと持って、「一流」に、「本物」になってください。そして3年生、当面の受験競技・受験ゲームに全力で立ち向かってください。

それでは、2学期のスタートです。勉強も勉強以外も、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)です。勉強も勉強以外も、「自学力=課題を発見し解決するために必要な『自ら主体的に学び続ける力』」です。まずは、至高・至幸の思港祭で、思考し、試行しましょう。